

ありそうな霧囲気が出てきたというのに、小さな支流に入らねばならないとは、何となく残念な気がしたが、結果的にはこちらの沢の方が面白かったようだ。

上文殊沢入口は平凡であったが、少し進むとV字に切れ込み、滝が出てきりそうな気配。そして、滝が出てきた。五段程度のもものが三つ。いずれも直登。ホールド豊富で、今日が沢登り二回目の阿部さんにとっても、手頃な滝登りになっただろう。こんな調子ならこの先も期待できそうである。

伐採されて明るくなった部分を過

ぎると、またV字に切れ込んだ沢筋となる。小滝がいくつも出てくるの

下文殊沢(仮称)右俣

上
一九八五年九月二八日

飯坂温泉からバイクを使って下文殊沢へ。一時間程で鳥川林道六号橋へ到着。身仕度を整えて、林道から踏跡にそって下文殊沢出合に降りる。出合に立つと、連瀑となって滝がかかる。左岸なら濡れないで登れるが、今日はシャワークライミングを楽しむながら直登する。

で、登るにあきない。

稜線直下まで流れが続いて、一時四〇分、尾根上に出る。

(記・下)

「タイム」出合(九・三〇)↓遊行終

了(二一・四〇)

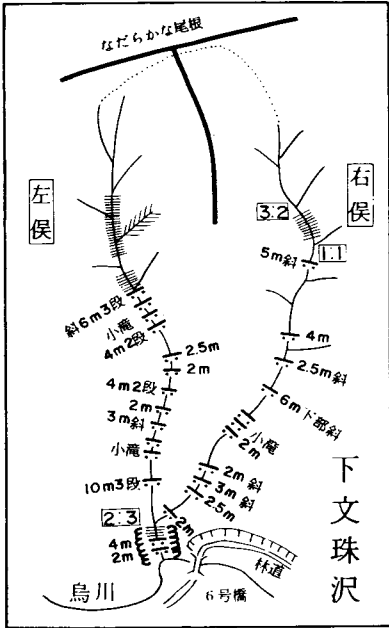
すぐ二俣となる。右俣には二段程度の小さな滝がかかっている。水量は、二対三で右俣の方がいくらか多い。右俣に入って遊行を続ける。

右俣は、次から次へと適当に滝が出てきて、あきることはない。簡単に直登でき、沢の入門コースとして最適である。

左岸から支沢が入り、四筋の滝を越すと、沢は明るくなり造林地に出る。さらに進むと、やがて沢は傾斜を増してくる。約一時間登った所で遊行終了とする。あとは左俣めざしてヤブをこぐ。二〇分でなだらかな尾根に出た。ヤブはそう濃くない。

(記)

〔タイム〕 烏川林道六号橋(一〇:五)



○ ↓下文殊沢出合(一〇:五五)
 ↓二俣(一一:〇五) ↓遊行終了(一二:〇〇、一二:一〇) ↓尾根(一二:三〇)

下文殊沢(仮称)左俣

一九八五年九月二八日

右俣の遊行を終えてから左俣の下

降に移る。尾根のヤブはそう濃くない

く、楽に下降点に移動できた。すぐに沢の上部に出る。源頭は落葉で覆われていた。多少肌寒く、沢歩きの季節としては少々遅いようである。

下降を開始し、いくつかの支沢を合わせると、沢床はナメとなる。沢全体がナメのようであるが、所々倒木や石がつまっていて、景観がだいなしである。

最初の滝は、左岸からの小沢が合わさる三段になった六筋の斜瀑である。あとはもう大きな滝はなく、一二筋の小滝が出てくる程度である。最後に三段の連瀑となったのがせめてものなぐさめであった。

右俣を合わせ、烏川との出合まで降りて下降終了となる。

(記)

〔タイム〕 下降開始(一二:四〇) ↓